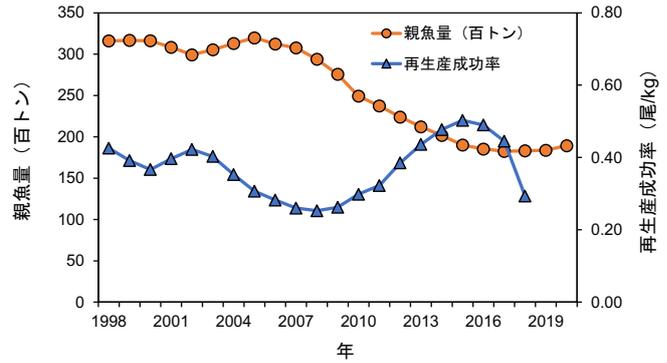
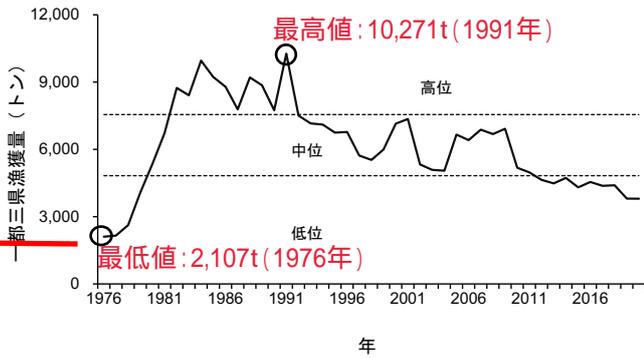


資源の動向②



※水準区分 低位/中位: 漁獲量の最高～最低値の下位3分の1に相当する4,828トン
 中位/高位: 漁獲量の最高～最低値の上位3分の1に相当する7,550トン

- 資源水準: 2020年の漁獲量は3,797トンであり、4,828トンを下回ることから「低位」
- 親魚量: 2020年は1.89万トン
- 再生産成功率: 2015年前後に一時的に増加
- 資源動向: 直近5年間(2016～2020年)の親魚量の推移から「横ばい」

・最高値と最低値の差=10,271t-2,107t=8,164t
 ・8,164t/3=2,721t
 ・最低値2,107t+2,721t=4,828t(低位/中位の境)
 ・4,828t+2,721t=7,549t 7,550t(中位/高位の境)

7

資源評価のまとめ

- 資源量指標値を考慮したコホート解析により計算した
- 2020年の資源量は2.53万トン、親魚量は1.89万トンと推定された。親魚量は横ばい傾向と判断された
- 一都三県の漁獲量の推移から、現在の資源水準は低位と判断された

2022年ABC

管理基準	Target/Limit	2022年漁期ABC (百トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
0.8Fcurrent	Target	25	10	0.12 (-36%)
	Limit	30	12	0.15 (-20%)

0.8Fcurrent: 減少傾向にある親魚量を増加に転じさせるため、現状の漁獲圧を削減した漁獲シナリオ

8